

グリーンピース『デトックス・キャットウォーク』について

2016年7月5日

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン



『デトックス・キャットウォーク』は、大手衣料品ブランドを展開する企業の有害化学物質全廃に関する取り組みを比較した世界ランキングで、今回で3回目の実施となります。今回の注目点は「実行」です。各ブランドは「2020年までに有害化学物質を全廃する」というグリーンピースとの合意に基づいて評価され、期限を達成するための必要な手段があるかどうかも考慮されます。

企業は過去数十年にわたって、政府の不十分な規制にかくれるような形で、環境、特に河川を有害物質の排水路のように使ってきました。製造工場の近くに住む人々や地域にとって、水質汚染は日常の現実となっています。各国政府の規制は、有害化学物質の環境への排出を確実に防いでいるとは言えず、難分解性の有害物質の及ぼす影響のせいで、とりわけ主に南半球の発展途上国では「安全な」レベルはありません。

グリーンピースは水質汚染問題を解決するために、有害物質による汚染を起こしている繊維産業に対して緊急に責任を取るよう求める『デトックス・キャンペーン』を、2011年7月から実施しています。多くの有名ブランドの衣料品が製造される過程で、有害な化学物質が一般的に使われているからです。『デトックス・キャンペーン』は、76のグローバルブランド、小売業者、サプライヤーが「2020年までに有害物質を全廃する」というグローバルの合意を実現し、ヨーロッパやアジアでは政策を変えるきっかけをつくり、規制の変更をもたらしてきました。特に、ファッションブランドは、ファッションの流行とサプライヤーへの影響力が強く、業界を変革するための重要な役割を果たすことができます。すでにイタリアではプラト(Prato)地区でのコラボレーションのように、42社の企業が有害物質全廃に向けて活動を始めるなど、変化の兆しが見えています。

繊維業界で有害物質削減が必要な一方、消費者が新しい服を買っては使い捨てをする「ファストファッション中毒」という傾向も顕著になり、ファッションによる環境と人体への影響が大きくなっています。グリーンピースは、将来的にはさらに抜本的な変化を推し進め、この「負の連鎖」を遅らせ、さらに終わらせたいと考えています。

『デトックス・キャットウォーク』第3回目について

<http://www.greenpeace.org/international/en/campaigns/detox/fashion/detox-catwalk/>

H&M「先取り前衛的ファッションブランド AVANT-GARDE」

H&Mは他ブランドの模範となり、自社サプライチェーン(供給網)での有害化学物質全廃に向けて明確で包括的な取り組みを進めてきたため「先取り前衛的ブランド」のランク入りを果たしました。

H&Mは「2020年までの有害化学物質全廃」への取り組みを定期的に更新しており、透明性のある有害性スクリーニング法と最も低い検出限界値を採用使用をすることで、現在の同社の「デトックス2020年計画」は、元々

対象だった11の有害化学物質群以外の化学物質にも拡大されています。同社の取り組みは、同社のサプライヤーに対して H&M のための製品だけでなく、その工場で扱うすべての製品で有害物質の全廃を確実にし、目標を達成するために「クリーン・ファクトリー」アプローチを採用しています。

H&M は、自社製品から有害化学物質の PFCs を撲滅した最初のブランドです。しかし、他ブランドと規制を通して PFCs 撲滅を進めるための事例文書を公表し、目標達成を果たす必要があります。同ブランドは、特に中国において、同社の世界各地にある染色加工工程のサプライヤーのうち 80%が同社のオンラインデトックスデータベースに登録することを目指すことで、情報公開に継続して取り組み、有害物質削減に関するサプライヤーレポートのウェブサイトでの公開率を高め、全廃の合意を最新の情報に常に更新する必要があります。

ファーストリテイリング 「進化系ファッションブランド Evolution Mode」

ユニクロを展開するファーストリテイリングは「先取り前衛的ブランド」に遅れを取り、第 2 グループの「進化系ファッションブランド」に位置づけられました。

ファーストリテイリングは、「2020 年までの有害化学物質全廃」のために、製品だけでなく製造工程、排水における使用制限物質リストを公開しています。また、有害性スクリーニング法の導入や「安全基準の厳しさに上限はない」ことを明言するなど、多くの先進的取り組みを進めています。同社は自社製品だけでなく、利用する工場で製造されるすべての製品に「クリーン・ファクトリー」アプローチを導入する必要があり、有害化学物質全廃と段階的な削減の目標期日をより明確に公表する必要があります。

ファーストリテイリングは、有害化学物質を 2016 年 7 月までに全廃すると約束していましたが、現時点では達成できないことを認めました。同社製品は 98%が PFCs 不使用となったものの、100%を達成するにはあと 1 年を要するとしています。取り組みはケーススタディとして公開されていますが、製品ごとの PFCs 使用有無の情報を顧客に伝える必要があります。情報公開面では、継続的にサプライヤーのデータ公開を確実にすることも必要です。また、少なくとも染色加工工程に関わるサプライヤー情報を含めたサプライヤーリストの公開もすべきです。

ナイキ 「NG ファッションブランド Faux Pas」

ナイキは残念ながら『デトックスキャットウォーク』で「NG ファッションブランド Faux Pas」と評価されました。3 つの評価基準の全てにおいて 1 ポイントも獲得できなかった唯一のブランドです。

グリーンピースはナイキとともに、2020 年までに有害化学物質全廃の計画を進める努力をしていますが、同社が真剣に取り組んでいるとは言えません。同社が依存している化学物質リストは、有害化学物質排出ゼログループ「ZDHC」(Zero Discharge of Hazardous Chemicals)の作成した不完全なリストで、これには 11 の優先して全廃に取り組むべき有害化学物質群に含まれる PFCs の大半が含まれず、完全とは言えません。

PFCs の削減に関しては、使用している同物質の 90%の削減に成功しましたが、同社の全ての製品から PFCs が撲滅されたわけではありません。同様に情報公開に関しても不完全で、サプライヤーに有害化学物質削減に関しての報告を義務づけていません。ナイキは「2020 年までの有害化学物質削減」への取り組みに対する姿勢を正し、有害化学物質全廃に対する責任をまっとうすべきです。

<本件に関するお問い合わせ>

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル 2F TEL 03-5338-9800

URL: www.greenpeace.org/japan

GREENPEACE

一般社団法人グリーンピース・ジャパン 160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル 2F TEL: 03-5338-9800 FAX: 03-5338-9817
NF BUILDING 2F 8-13-11 NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU, TOKYO 160-0023, JAPAN TEL: +81-3-5338-9800 FAX: +81-3-5338-9817 www.greenpeace.org/japan